

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム 桜の詩(1階)		
所在地	静岡県静岡市清水区船越町13番地		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274202403&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公園の緑や車の音があまりしない、静かな環境の中で生活しています。老若男女の職員、其々が持ち味をフルに活かし入居者様の人生に寄り添い共に生活することで日々笑顔で暮らしていただきたく努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

船越堤公園に隣接し、春には桜の名所として花見を楽しむことが出来る。豊かな自然に囲まれた環境にあり、利用者の移動能力に応じて少人数で外出や行事などで外出に出かけていることから「おだやかな環境でおだやかに過ごせるように」との姿勢が窺える。年間行事では家族と過ごせるようにお弁当を手配し、家族と利用者と職員とが野外で一緒に食べられるような工夫がある。また、「食は生活に連動している」との考えのもと、食材の一部をミキサー食にして出したり、季節ごとの料理を提供して経口で食事が続けられるための取り組みが視認された。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールと1、2階ホールに理念を掲示し、管理者及び全職員は就業の基本として、日々取り組んでいる	2年前に職員が話し合って理念を作成し、ホールに掲示している。理念にもとづく方針として、1階では利用者の能力を大切にしたい支援をおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入させていただき、ピンカン当番、地区の一斉清掃、敬老会、防災訓練等の行事に参加し交流に努めている	事業所の機関紙が地域で回覧できたり、地域の夏祭りや防災訓練に利用者が参加するなど地域と一体となった取り組みが行われている。1階は移動に制限がある利用者を考慮し、比較的近隣との交流がおこなわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会議の出席や、民生委員、自治会の方に運営推進会議に出席頂き、ホーム行事の紹介や地域高齢者の情報、相談を気軽にさせて頂けるよう説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4土曜日に開催を決め、地域の方、入居者家族様、他事業所の方などにサービスの内容や今後の予定などを報告し情報や意見を伺いサービスの向上に努めている	民生委員、町内の人、ご家族、地域包括支援センターやのほか、居宅介護支援事業所や医院からの参加もある。医院の代表からは感染症についてなど、後学のためになる話も多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	講習や催事には積極的な参加を心掛けている。運営推進会議開催日の年間予定を通知して出席をお願いしている。	市の介護保険課には運営推進会議について年間計画をあらかじめ伝えてあり、日程が調整しやすいように配慮している。市担当者とは、連絡や会議への参加の機会により普段から顔の見える関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が参考資料を基に入居者の安全、安心を優先し、見守りを中心に入居者に寄り添うケアに努めている。外部からの安全の為、夜間のみ施錠している	「身体拘束0宣言」を継続している。拘束が必要な場合でも、必要な書面など整備のうえ家族や市の担当者と協議して検討している。生活環境を工夫したことにより、現在は拘束する必要はなくなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で充分話し合い、日々の生活の中でも特に言葉遣いなど職員同士がお互いに注意し見過ごさないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行いその制度について学び理解を深めている。必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談から解約に至るまでの相談を行い、事業所のケアに関する方針や取り組みなどに十分な説明を心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置し、ポスターを貼り苦情受付先を明記している。運営推進会議や家族会、検討会等で気軽に不満や苦情を伺えるように心掛けている。苦情に対する専門の委員を設置している	家族と接する際にはできるだけ直接話を聞くようにしている。行事の際はお弁当を手配し、利用者と家族とのテーブルに職員も一緒につき、歓談を通して意見の出やすい関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会、個人面談、毎日の申し送り時などで話し合い、社内研修や管理者会議、管理者面談等で職員の意見を伝えている	管理者はできるだけ現場に出て、職員の様子を把握することを旨としている。各委員会を設け、委員会で集約した意見を定例会で検討している。結果は申し送りノートに記入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や面談の機会を作り就労環境の改善に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が希望する社内研修を受講し、介護資格取得の支援をしている。外部研修受講後はホーム内で勉強会を開き日々の介護に役立っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者などとネットワーク作りをし、弊社の他ホームとは勉強会や交流研修を通じてサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問、面会をし、今までの生活の様子や意見を伺い、入居に対しての不安を取り除くように努めている。体験利用サービスを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を行い日常生活を見ていただき、不安や要望を伺い納得されるまで話を伺うよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より面接を行い、介護計画を立て、必要なサービスを提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬意を持って接し、日常生活や行事、四季を感じて楽しみながら生活できるよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主に面会時などで話し合いの機会を設け現況をお知らせし、希望や要望等を伺い互いに支援ができる関係作りを心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に訪問いただけるように、時間の制限など無く面会を受け付けている。本人が送る年賀状や暑中見舞等の手伝いをしている。	できるだけ自分の力を使って人間関係を維持するため、例えば手紙を出すことなどを支援をしている。防災訓練の後に、家族と一緒に食事する時間を設けるなど、家族とのふれあいを大切にしていることが視えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取れるように職員が間に入り、一緒に関わりながら支援している		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等連絡をいただければ、いつでも対応できるよう努めている。失礼のないようお便りをしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成、見直しの時や日常生活の中で本人の希望、意向を受け入れ、家族とも話し合いをしている	入所時だけでなく変化に応じてアセスメントをおこない、特に入退院後の変化に留意している。食事など嗜好の変化が体調の変化に関連していることも捉え、意識して観察するようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より本人や家族より聞き取りをし、情報提供書を参考に生活歴やこれまでの生活環境の把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態を観察し、申し送りや本人の意向、希望を尊重し現状の把握に努めている	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当職員を配置し充実した支援に心掛けている。カンファレンスに家族も参加いただき意見や情報の共有をし計画作成に活かしている	カンファレンスには家族にも出来るだけ立ち会ってもらい、さらに利用者1名に対して生活担当・計画担当と2種の職員が生活状況を把握している。1階では計画作成にあたり、おもに人とのかかわりを大切にしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員連絡帳や申し送りにより情報を共有し、毎日の生活記録と介護計画書を共にファイルして介護の実践に活かしている。個別情報書に最新情報を記入し、常に日々の変化を把握している	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応出来るよう心掛けている	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のお祭り(踊り)や防災訓練へ参加している。食材等の買い物に職員同行でマーケットに出かけている	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回の定期受診をホーム内にて行っている。症状に応じて家族も立会いをし、状態の把握をしている。	総合病院を除けば、協力医より従来からのかかりつけ医を利用している利用者の方が多い。家族が送迎できないことも多く、その場合は職員が受診に同行している。また、受診に本人家族に職員が同行することもある。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師による健康管理、相談、助言、指導又勉強会などを行っている。急変時24時間対応となっている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と共に医師の説明を受け、状態把握のため面会に出かけている。医師より経過報告、退院後のケア方針の助言などを受けている	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の協力が必要である事を説明している。段階により、その都度話し合い支援に努めている	「看取りについて」のマニュアルを整備し、あらかじめ入所の際に家族に協力が必要ということを説明している。状態を家族に説明し、経過を把握してもらうことにより期待と現実のギャップを少なくする取り組みもみられた。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法の講習を受け、事故対策委員会を中心に会議や訓練を行い、マニュアルを作成し備えている	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に火災、地震発生を想定し各々に沿った訓練を毎月行っている。又定期的に消防署の協力での訓練も行っている。自治会の協力も会議や紙面でお願している	毎月防災訓練を開催している。地域の人にも広報しているため、近所の人が見学に来ることもある。地域の訓練には利用者・職員とも毎年参加していて、車いすでの移動など避難時に慌てないための取り組みが視えた。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新入職員研修、社内研修等で接遇など細かな指導を行い、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている	年間の計画をもとに法人での外部研修を受け、受講した職員がホーム内研修で報告している。プライバシーに関する配慮は、当日その時に気づいた職員が諭すようにしている。	職員同士での個人情報にかかわる話題は配慮するなど接遇の向上が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う介護を心掛け、希望や思いを表せる環境、関係作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状態に応じ、無理の無い一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や催事の時のお化粧、季節に合った服装選び、又ボランティアの美容師によるヘアカットなどの支援		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じた食べやすい大きさや形状、季節に合わせた献立。本人ができる範囲での準備、片付けなどを一緒に行っている	献立係が利用者からも意見を取り入れてメニューを考案している。1階では意向をはっきりと伝えられる利用者が多いので、希望に合わせた食材を購入したり、利用者の嗜好に応じてノンアルコールビールなども用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量を記録し個々の状況を把握し、不足に注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけ、一人で出来ない方の仕上げ介助、義歯の手入れなど毎日支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を工夫して排尿、排便の間隔を把握し記録を活かした声掛け誘導を支援している	排泄チェック表により利用者ごとの水分補給、排尿排便、パットの交換など時間ごと把握されている様子が視認できた。禁して自信がなくなることも考慮し、自尊心を傷つけない支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳やヨーグルトなど飲み物の工夫や排泄記録に水分摂取量を同時記録し、個々の排泄の把握を行い体操や散歩を促し便秘予防に取り組んでいる。医師や訪問看護師に相談や指示を受けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や面会、外出にあわせ希望を取り入れ柔軟に対応している。各々に浴槽の清掃を行い適宜洗髪や陰部洗浄等に応じ清潔保持を心掛けている	湯は利用者ごと新しくしている。1階では、最近入浴用車いすを購入し、居室から浴室までスムーズに移動できるようになった。利用者・職員とも身体的な負担が減り、スムーズに入浴できるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は自室と居間の温度差や明るさに気をつけている。日中は入浴や行事、個々の生活習慣にあわせ休息をとるなど健康管理に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個々に配薬表にて把握し症状の変化や投薬の変更は記録、申し送り職員全員が状況把握に努めている。疑問等は医師、薬剤師に問合せている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望、意向を尊重し、その日の心身の状態で楽しみごとや気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族やボランティアの協力を得て外出の支援に努めている。戸外での運動や散歩、地域のイベントなどに参加している。個別にお寺や買い物等に対応している	隣接する公園に散歩し、身体機能が低下した利用者は勾配の緩い散歩コースを選択している。また、行事の際にはボランティアによる外出支援もおこなわれる。1階では床屋に行くなどの支援や、マンツーマンでの買い物支援をおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特にお小遣いの所持制限はないが、個々の判断能力に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じた連絡方法を本人、家族と相談し、コミュニケーションをとるようにしている。季節の便りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯により照明調整や音楽(BGM)によって、一日の流れを提案し落ち着いて過ごせる工夫をしている	玄関には生花が飾られ、屋内は通路も広く回廊式になっている。共用空間では時間ごとにBGMが流れ、明るくゆったりとした空間が視認された。1階にはウッドデッキが完備され、ベンチに腰かけ涼しげに外気浴している利用者も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダへ自由に移動や、個々の落ち着く場所の確保、提案を心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・整理・整頓を心がけ、本人の好み、希望を取り入れストレスの無い居室作りを家族と相談し工夫している	使い慣れた家具を出来るだけ持ち込めるように依頼している。防災の観点から、居室内のタンスは倒れないように家族の協力を得ている。1階では、カレンダーを飾ったり、机など持ち込んでいる様子が視認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に個々の体力や行動力に伴う介助を心掛けている		